

人権のいろ いっぱい
いまKARA ここKARA わたしKARA

No. 1 / 1
テーマ
世界と人権

地球上の誰一人として 取り残さないために！

令和3年2月 福岡県教育委員会
福岡県教育庁教育振興部人権・同和教育課
福岡市博多区東公園7-7
TEL 092-643-3918
FAX 092-643-3919

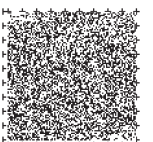
- 「誰一人取り残さない社会」 KARA P2
- 「SDGsについて知ること」 KARA P4
- 「SDGs達成に向けたESDの取組」 KARA P7
- 『あおぞら2』 KARA P10
- 「新型コロナウイルス感染症とSDGs」 KARA P12
- 「おすすめDVD」 KARA P16

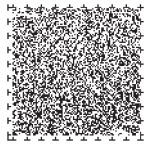


障害者OK

利用の際は必ず下記サイトを確認下さい。
www.bunka.go.jp/jiyuriyo

※全ページの上下に音声コードとその位置が分かる切り欠きを付けています。
※県庁ホームページからスクリーンリーダーソフトによる読上げも可能です。





誰一人取り残さない社会を実現するために



創設75年を迎えた国際連合の2020年総会の中で採択された記念宣言では、新型コロナウイルスの世界的大流行が「国連の歴史上最大の課題」と位置付けられ、「多国間主義は単なる選択肢ではなく必要不可欠なもの」と国際協調の必要性が再確認されました。今、世界を見渡すと、人種差別、貧困、紛争、テロ、気候変動、資源の枯渇など、これまでになかったような数多くの課題に直面しています。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなってしまうとも言われています。

そこで、本号では、「世界と人権」をテーマに、国際的な人権を取り巻く状況の変化を踏まえ、誰一人取り残さない社会を実現するための人権教育の在り方について考えていきます。

持続可能な開発目標 (SDGs) って何？



SDGs : Sustainable Development Goals

2015年9月の国連サミットにおいて、全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ※」(以下、2030アジェンダ)が採択されました。前文には「誰一人取り残さない」「すべての人々の人権を実現する」と宣言されており、国際社会における普遍的価値としての人権尊重の理念が基盤にあることを示しています。

この2030アジェンダに掲げられた世界共通の目標がSDGsです。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

※ | 人間、地球及び繁栄のための行動計画のこと。(出典 外務省資料 2030アジェンダ仮訳)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

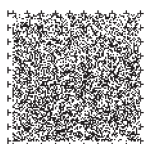


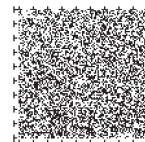
ご存じですか？

持続可能な開発のための教育 (ESD) とは？

ESD=Education for Sustainable Developmentの略で、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のことです。

また、ユネスコでは、2019年にESDがSDGsを推進する人材を育成するための鍵であることが確認されました。





SDGsの目標4は、「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」と教育に特化したもので、目標4の中にさらに10のターゲットが設定されています。

このうちターゲット4.7には、次のように示されています。

目標4 ターゲット4.7

2030年までに、持続可能な開発のための教育（ESD）及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通じて、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

一人ひとりがかけがえのない存在として尊重される社会や、偏見や差別のない社会の実現を目指すものになっています。



SDGs達成に向けた日本の取組KARA

令和2年12月にSDGs推進本部が定めた「SDGsアクションプラン2021」の基本的な考え方には、「コロナ危機のために国際社会において人道・開発・平和が損なわれてはならない。改めて、『誰一人取り残さない』との考え方の下、SDGsを重要な指針として臨むことの大切さを訴えたい。」とあります。

この「SDGsアクションプラン2021」においても、人権尊重の理念が基盤にある取組が示されています。

「心のバリアフリー」の推進

外国人・障がい者の人権の尊重をテーマとした人権啓発活動に積極的に取り組み、国籍の違いや障がいの有無等の違いに関わらず相互に尊重し合う共生社会を実現する。

初等中等教育の充実

全ての意志ある生徒が安心して教育を受けられるよう、高等学校等に在籍する生徒に対して、授業料に充てるため、高等学校等修学支援金を支給するとともに、低所得世帯の授業料以外の教育費負担を軽減するため、高校生等奨学給付金により支援を行う。

コミュニケーション手段の多様化を踏まえた子どもの人権問題への対応の推進

いじめや虐待を始めとする子どもの人権侵害について、SOSミニレターの事業の充実を図るとともに、若年層の利用が多いSNSを活用した人権相談体制の整備等により、子どもの人権問題への対応を推進する。

「SDGsアクションプラン2021」（令和2年12月SDGs推進本部）から抜粋

次のページでは、持続可能な開発目標（SDGs）について、さらに理解を深めるために、誕生の背景などについて紹介していきます。



福岡県 KARA

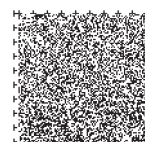
【福岡県におけるSDGsの推進】

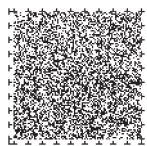
福岡県では、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すなどのSDGsの考え方を踏まえて施策に取り組むことにより、持続可能な経済社会づくりの推進を図っています。

平成27年12月に策定した「福岡県人口ビジョン・地方創生総合戦略」について、SDGsの考え方を踏まえた見直しを行い、令和2年3月に第2期地方創生総合戦略を策定しました。この中で、SDGsの17のゴールと、総合戦略の基本目標・取組方向との関係を整理することで、施策にSDGsの要素を盛り込んでいます。

また、内閣府から、SDGs達成に向けた優れた取組を行う「SDGs未来都市」として、以下のとおり本県の自治体が選定されました。

- 平成30年度・・・北九州市
- 令和元年度・・・大牟田市、福津市
- 令和2年度・・・宗像市





持続可能な開発目標（SDGs）誕生の背景と 人権との関わりについて理解を深める



持続可能な開発目標（SDGs）は、2001年（平成13年）に策定されたミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）の後継となる国際目標です。

ここでは、持続可能な開発目標（SDGs）について理解を深める手がかりとして、持続可能な開発（SD）から持続可能な開発のための教育（ESD）への流れと、「ミレニアム開発目標（MDGs）」について紹介していきます。

1 「持続可能な開発(SD)」から持続可能な開発のための教育(ESD)へ

持続可能な開発（SD）とは、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」を意味します。環境と開発を、互いに反するものではなく共存し得るものとしてとらえ、環境保全を考慮した節度ある開発が重要であるという考えに立っている概念です。1992年（平成4年）の国連環境開発会議（地球サミット）では、持続可能な開発が、人類が安全に繁栄する未来への道であることが確認されました。

その後、教育と持続可能な開発に関する取組が世界的に行われる中、国連教育科学文化機関（UNESCO、ユネスコ）が中心となり、持続可能な開発のための教育（ESD）のあり方について検討が進められます。

そして、日本は、国内のNPOからの提言を受け、2002年（平成14年）の持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）で「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」を提案します。この動きが、2005（平成17）年からの「国連ESDの10年」につながっていくこととなりました。



「持続可能な開発」という考え方は、経済発展と地球環境の問題に関する国際的な取組の中から生まれたんだね！



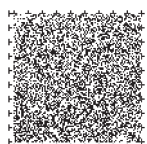
「持続可能な開発」と人権とは関わりがあるのかな？

「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」という「持続可能な開発」の考え方を、基本的人権の尊重という視点で考えてみましょう。

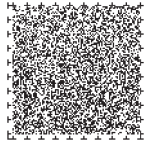
私たちが行う活動の結果は、現在の世代の地球上の人々だけではなく、将来の世代にも大きな影響を与える可能性があります。1972年（昭和47年）に開かれた国連人間環境会議で採択された「人間環境宣言」には、「自然のままの環境と人によって作られた環境は、共に人間の福祉、基本的人権ひいては、生存権そのものの享受のため基本的に重要である」とあります。将来の世代が生存権そのものを享受できるかどうかは、将来の世代だけの問題ではなく、現在の世代の問題でもあるといえるのではないのでしょうか。



福岡県 KARA



持続可能な開発のための教育（ESD）とその取組については、人権教育指導者向け学習資料「KARA FULL」No.4（平成30年10月発行）でも紹介しています。



2 ミレニアム開発目標(MDGs)とは

ミレニアム開発目標 (MDGs) は、開発分野における国際社会共通の目標です。この目標は、2000年 (平成12年) に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言を基にまとめられました。

ミレニアム開発目標 (MDGs) は、2015年 (平成27年) までに達成すべき8つの目標を掲げました。その内容は、後継となる2030アジェンダに引き継がれています。



独立行政法人 国際協力機構 (JICA) ホームページをもとに作成



先進国を含めたすべての人々を対象にした持続可能な開発目標 (SDGs) に対して、ミレニアム開発目標 (MDGs) は、開発 (発展) 途上国の抱える貧困などの問題について、国際社会の問題としてとらえて解決していこうとするための目標なんだね!



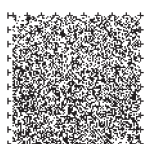
開発途上国の抱える貧困などの問題について、私たちの問題としてとらえるにはどのように考えたらよいのだろうか?

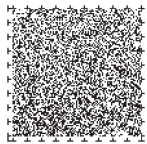
さまざまな見方や考え方がありますが、一つの見方を挙げてみましょう。私たちは、国内で生産された商品だけではなく、国外で生産された商品を消費しています。その商品の向こう側には、商品をつくったり、商品を運んだりする人がいます。もしかしたら、私たちがあたりまえのように消費している商品をつくっているのが、学校などで学ぶ機会を奪われたまま一日中働かされている小さな子どもかも知れませんし、商品を運んでいるのが劣悪な環境の下、低賃金で働かざるを得ない労働者かも知れません。私たちの消費行動は、開発途上国で暮らす人にも影響を与えているといえるのです。



この問題は、開発途上国で暮らす人々の教育を受ける権利やディーセント・ワーク (働きがいのある人間らしい仕事 [雇用]) といった問題と考えることもできるな。

内閣官房ホームページ、外務省ホームページ、文部科学省ホームページ、環境省ホームページ、国際連合広報センターホームページ、独立行政法人 国際協力機構 (JICA) ホームページを参考に作成





【資料】SDGsに関連した主なできごと、学習指導要領及び最近の教育政策におけるSDGsとESD



持続可能な開発目標 (SDGs) に関連した主なできごと

年(西暦)	主なできごと
1987	国連の環境と開発に関する世界委員会で、「持続可能な開発」の概念が取り上げられる。
1992	国連環境開発会議(地球サミット)において、持続可能な開発についての行動計画「アジェンダ21」に教育の重要性が盛り込まれる。
2000	国連ミレニアム・サミットにおいて、国連ミレニアム宣言が採択される。
2001	国連ミレニアム宣言を基にまとめられたミレニアム開発目標(MDGs)が策定される。
2002	国連持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)で、ESDの10年が提案される。
2005	国連ESDの10年がスタートする。(～2014年)
2015	国連持続可能な開発サミットにおいて、SDGsが記載された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択される。
2020	SDGs達成のための「行動の10年(Decade of Action)」がスタートする。

内閣官房ホームページ、外務省ホームページ、国際連合広報センターホームページをもとに作成

学習指導要領及び最近の教育政策におけるSDGsとESD

平成28年12月に発表された中央教育審議会の答申には、「持続可能な開発のための教育(ESD)は次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念である」とあります。答申に基づき改訂され、平成29年3月に公示された幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領及び平成30年3月に公示された高等学校学習指導要領においては、全体の内容に係る前文及び総則において「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科においても、関連する内容が組み込まれています。

ESDは、持続可能な社会の担い手づくりを通して、SDGsの17全ての目標達成に貢献するものです。

第三期教育振興基本計画(平成30年6月閣議決定)

第2部 今後5年間の教育政策の目標と施策群

<主として初等中等教育段階における>

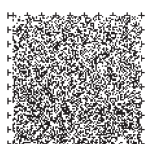
目標(1)「確かな学力の育成」(P.49)、目標(2)「豊かな心の育成」(P.5)

「我が国がESDの推進拠点として位置付けているユネスコスクールの活動の充実を図り、好事例を全国的に広く発信・共有する。また、地域の多様な関係者(学校、教育委員会、大学、企業、NPO、社会教育施設など)の協働により、ESDの実践・普及や学校間の交流を促進するとともに、ESD教育の深化を図る。これらの取組を通して、持続可能な社会づくりの担い手を育む。」

小(中・高等)学校学習指導要領 抜粋

【前文】

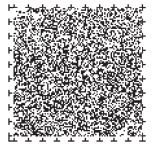
これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。



次のページからは、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けたESDの取組の一例として、大牟田市で行われている取組を紹介します。

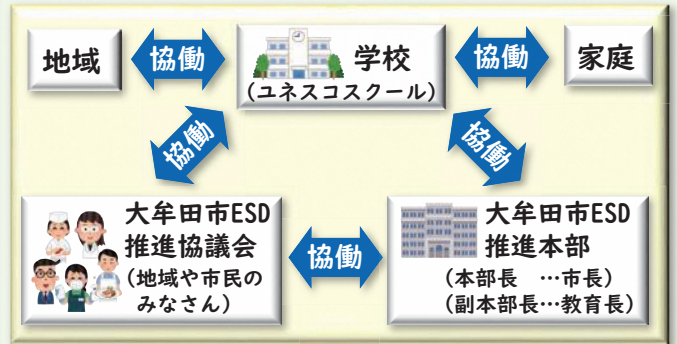


SDGs達成に向けたESDの取組
～大牟田市・大正小学校・宮原中学校の取組から～



1 大牟田市全体でのESDの実施

大牟田市では、平成24年1月に市内全ての市立学校がユネスコスクールに加盟し、「ユネスコスクールのまちおおむた」として各学校でESDを推進してきました。近年では、市長を本部長、教育長を副本部長とする大牟田市ESD推進本部の設置や、市内の全ての教職員のための「ESD実践の手引き」や「SDGsおおむたマップ」の作成、「ユネスコスクールだより」の発行など、市をあげてESDに取り組んでいます。



「ユネスコスクールのまち おおむた」

2 『大牟田版SDGs』の作成

大牟田市教育委員会では、これまでの大牟田市の各学校での地域の課題に根付いた実践をもとに、『大牟田版SDGs』を作成しました。これは地域の課題、財産といった特色を踏まえ、SDGsの17の目標から、基盤となる目標を2つ、重点的に取り組む目標を8つ選んでいます。このようにSDGsを活用して取組の整理を行うことで、ESDの取組の意義も明確になっています。

人権尊重の精神の育成とすべての人々の共生に向けた人権教育・啓発の推進にもつながっています。

大牟田市におけるSDGsの重点
『大牟田版SDGs』

持続可能な大牟田のまちづくり

「重点目標」 < Intensive Goals >

3 すべての人に健康と福祉を	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に
----------------	----------------------	------------------	----------------	-----------------	--------------	--------------	-----------------

「基盤目標」 < Basic Goals >

17 パートナーシップで目標を達成しよう

パートナーシップで目標を達成しよう

- 多様な主体の参画と連携
- 他地域・大学との連携
- 国際的連携

「基盤目標」 < Basic Goals >

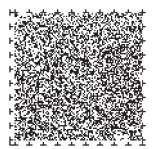
4 質の高い教育をみんなに

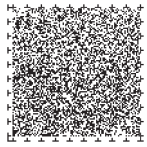
質の高い教育をみんなに

- 各市立学校がユネスコスクールに加盟
- 世界遺産学習の推進
- 海洋教育の推進

大牟田市の特色

【課題】 ● 少子高齢化 【財産】 ○ エネルギー・環境（公害の克服）
 ● 石炭産業の衰退 ○ 世界文化遺産（明治日本の産業革命遺産）
 ○ 海洋教育（有明海と三池港）





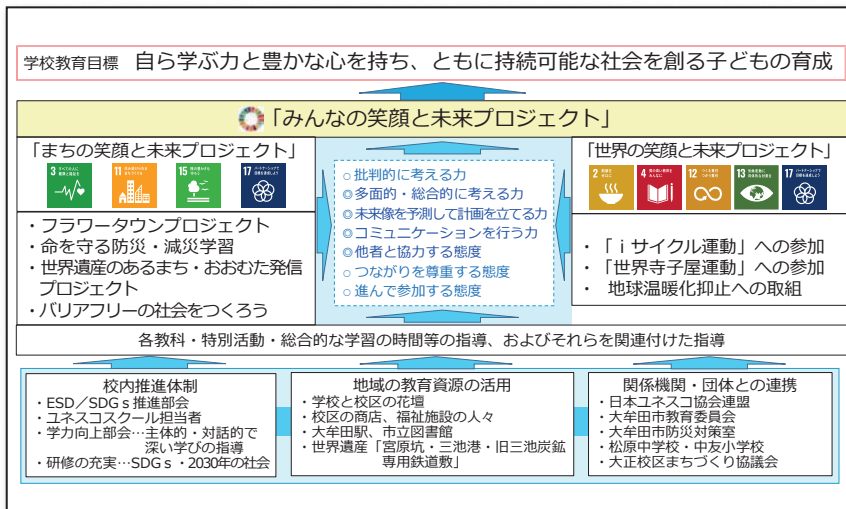
大牟田市立大正小学校の取組



1 本校の持続可能な開発のための教育(ESD)

大牟田市立大正小学校では、SDGsの達成を目指して、子どもたちが、自分たちの住む社会や世界の幸福とよりよい未来を創るための「みんなの笑顔と未来プロジェクト」に取り組んでいます。このプロジェクトでは、子どもたちが社会・世界を学びの場として、そこで見つけた課題を解決する活動を通して、持続可能な社会の創り手となる力を育てていくようにしています。

2 持続可能な開発のための教育(ESD)の具体的取組



左の図は、SDGsの理念でもあるすべての人々の人権を実現し、誰一人取り残さない社会の実現のためにどうするのかを具体化する、大正小学校の「みんなの笑顔と未来プロジェクト」の全体構想です。

人権を尊重する地域づくりに向け、地域社会と密接に連携を図った「フラワータウンプロジェクト」を中心に取り組んでいます。

【花でつながるあたたかいまちづくり「大正フラワータウンプロジェクト」】

大正フラワータウンプロジェクトでは、子どもたちは、大正地区や大牟田のまちを「花でつながるあたたかいまち」にしたいと、地域の皆さんと一緒に校外で花を育てたり、地域の皆さんに感謝の気持ちを表すために学校で育てた花苗を届けたりする活動をしています。この、まちの人々とのつながりを大切に活動は、共に子どもを育てるといふ人権教育の基盤づくりにもつながっています。



国道沿いの花壇での花の世話



お世話になった人に花を贈る



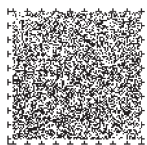
水害にあった小学校へ切り花を贈る



松尾 博之 校長

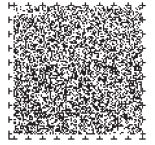
毎年行っている大正フラワータウンプロジェクトの取組を通して、子どもたちは、地域社会で様々な人と出会ったり、多様な価値観にふれたりしながら、他者を尊重する態度や共に生きていく姿勢を身に付けています。日頃お世話になっている地域の人に花を贈ったり、水害にあった近くの小学校へ切り花を贈ったりする姿も見られています。

このプロジェクトを通して、子どもたちに優しい心、思いやりの心、それから助け合う気持ちが、育まれています。





大牟田市立宮原中学校の取組



1 本校の持続可能な開発のための教育(ESD)

大牟田市立宮原中学校では、SDGsの達成に向け、すべての教育活動でESDを推進しています。未来をつくる子どもたちが、持続可能な社会づくりに向けて、意欲をもって自己実現を図るために、世界遺産学習や福祉学習などに取り組んでいます。また、校務分掌にESD推進部を位置づけ、地域連携コーディネーターを置き、地域の方々との連携を図り、他者を尊重する態度や共に生きていく姿勢を身につけることができるようにしています。

2 持続可能な開発のための教育(ESD)の具体的取組

本校の4つの柱

世界遺産学習

福祉学習

国際理解学習

キャリア学習

5つのSTEPを踏まえたESDの推進

STEP1: 学校経営方針とESDの目標

STEP2: 指導案(指導計画)の作成

STEP3: 学校運営(ホールスクールアプローチ)

STEP4: 地域や大学・企業との連携

STEP5: 発信と振り返り

本校では、主に左記にある4つの柱で、5つのステップを踏まえたESDを推進し、人権や人権問題についても学び、理解を深めています。

世界遺産学習



英語のリーフレット

校区内には、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成遺産があり、世界遺産の価値を内面化させるために有効な「世界遺産についての学習」、保存や保全に対する態度や世界遺産を保護して、次世代に伝承しようとする当事者意識を育む「世界遺産のための学習」、世界遺産を窓口として国際理解、環境教育、平和教育等へアプローチする「世界遺産を通じた学習」を行っています。

第1学年: 大牟田の世界遺産
第2学年: 日本の世界遺産
第3学年: 海外の世界遺産

福祉学習



模擬訓練の様子

高齢者訪問

本校の福祉学習は、地域の高齢者や幼児と直接触れ合い学ぶ学習を中心としています。GTを活用した認知症に関わる絵本を活用した学習や、ひとり暮らしの高齢者訪問や「ほっとあんしんネットワーク模擬訓練」などの体験的な活動を取り入れた学習などを行っています。

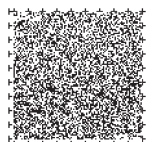
第1学年: 認知症絵本教室
第2学年: ほっとあんしんネットワーク模擬訓練
ひとり暮らしのお年寄り宅への訪問
第3学年: 市内の保育園、幼稚園での保育実習

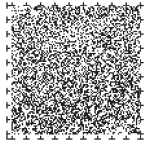


野田 環紀 校長

子どもたちの学習環境を地域の中で整えることは、人権教育を進める上でも、とても有効です。ボランティア団体や地域の福祉施設等、人権を守り人権尊重の社会を支える活動をする専門家の存在を知り、直接出会うことは、子どもたちにとって人権を具体的に学ぶ機会になり、人権感覚を培うことの契機となります。

今後も子どもの居場所や参画の場を保障するためにもこのESDを継続することが大切だと考えています。





人権教育学習教材集「あおぞら2」 小学校低学年用教材「せかいのありがとう」



国連の「人権教育のための世界計画」は、2020年から第4フェーズ（段階）に移行しました。若者を重点領域とする第4フェーズの行動計画には、「近年、青少年のための人権教育は、現在のグローバルな諸課題を防ぎ、取り組むための戦略のひとつであるとの認識がますます高まっている。」と明記されており、持続可能な開発目標（SDGs）のターゲット4.7（本号3ページ参照）と関連することが述べられています。

4 質の高い教育を
みんなに



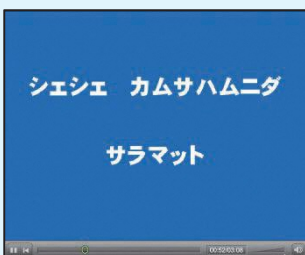
人権教育を通じて子どもたちが世界の文化の多様性を理解し、お互いに尊重し合う関係を築くべきであると認識することができれば、様々な人権問題の解決とともに、国際社会の発展につながります。令和2年度福岡県教育施策実施計画においても、世界の多様性の理解を目指す「国際的視野を持つ人材の育成」が施策の一つとして挙げられています。そこで、「世界と人権」をテーマとする本号では、『あおぞら2』の中から小学校低学年用教材「せかいのありがとう」を紹介します。

せかいのありがとう



世界には多くの言語がありますが、あいさつ等の基本的な行動様式は共通しています。この教材は、そのような行動様式が互いの心を通い合わせるきっかけとなることを知り、国や文化のちがいを理解し、親しみをもつことができるよう作成されています。児童は、動画と歌を通して世界の「ありがとう」に触れることで、世界には多くの国や言語があり、様々な人々がいることに気付くとともに、感謝の気持ちを伝える表現の心地よさを感じることができます。朝の会や帰りの会、集会活動などでの活用も可能です。

1 教材の解説

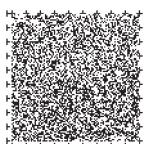


本教材は、「世界と人権」の観点から、世界には多くの国や言語があり、様々な人々がいることを知り、そのちがいが理解できるようにすることを目的としています。「ありがとう」をいろいろな国の言葉で表現する動画と歌によって構成しており、歌「せかいのみんなにありがとう」の歌詞については、1番を「日本における外国人登録者数の多い国や日本と結びつきの深い国の言語」で、2番を「母語人口の多い言語」で収録しています。（いずれも本教材作成時の状況に基づく。）

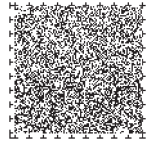
2 本教材で育てたい資質・能力



- 世界の「ありがとう」を知り、ちがいを理解することができる。
【知識的側面（自己開示に関する知識）】
- 世界の「ありがとう」を知り、ちがいを肯定的にとらえようとする。
【価値的・態度的側面（多様性に対する開かれた心と肯定的評価）】
- 教材を通して相手の気持ちを想像することができる。
【技能的側面（他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能）】

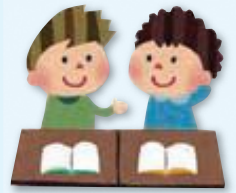


3 教科等における活用例 学級活動(2)「イ よりよい人間関係の形成」





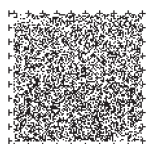
〈主眼〉

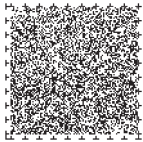
- 「どんな時にどのようにありがとうを伝えるか」を話し合う活動を通して、仲良く学級生活を送ろうとする態度を養う。
- ◇ 世界には感謝の言葉があることを理解させ、多様性の肯定的評価につながる態度を育てる。



〈展開例〉

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 事前アンケートの結果を振り返り、本時学習のめあてをつかむ。 (1) アンケート結果を知る。 (2) 本時の学習のめあてをつくる。	○ 課題をつかみやすくするために、「優しい言葉にふれた経験」に関する事前アンケートの結果を提示する。 ○ 優しい言葉があふれる学校生活のイメージを学級全体で共有した上で、そのことばの一つである「ありがとう」に焦点を絞る。
	「ありがとう」がいっぱいのクラスにするにはどうしたらよいか考えよう。	
展開	2 街の人々の生活場面を描いた絵(心のノート低学年版 p.48~p.49)を見て、「ありがとう」が使われている場面を探し、丸で囲む。 3 これからの自分たちの行動について話し合う。 (1) 友だちに、ありがとうの気持ちを伝えるカードを書く。 (2) 全体で発表する。	○ 次の学習活動のポイントである「気持ちを想像すること」につなげるために、感謝の思いを伝えているととらえた理由についても、学級全体での交流を行う。 ○ 感謝の思いを表現する実践行動へのきっかけとして、身近な相手のことから考える機会を設ける。対象については、学級の状況にあわせて「せいかつはんのみんなへ」のように個人に限定しなくてもよい。 ○ 「感謝の思いを伝えるためには、相手の気持ちを想像することが大切である」ということを確認する。
終末	4 「ありがとう」という言葉は世界中で使われていることを知り、「ありがとう」の心地よさを感じる。 (1) 「ありがとう」と外国語で言っている動画を見る。	○ 外国にルーツのある児童が在籍している場合は、本人・保護者の思いや学級・学校の状況などを踏まえ、取り上げる国について説明したり、取捨選択したりする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">・せかいの「ありがとう」全編</p> <p style="text-align: center;">-せかいの「ありがとう」-</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェシェ(チロウゴク) ・カムサハムニダ(かんこく) ・マラシ(サラマツ) ・オブリガード(ボルトガル) ・カムーン(ベトナム) ・ダンニャバード(ヒンディ) ・ダラシアス(スペイン) ・メルスイ(フランス) ・コップンカップ(タイ) ・サンキェウ(えい) ・キートス(フィンランド) ・グタッフィエ(イタリア) ・ドンパッド(ベトナム) ・スパスィーバ(ロシア) ・トハリマ・カシ(インドネシア) ・マハロ(ハワイ) </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">各語をクリック</div> ➔ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">コップンカップ(タイ)</div> </div> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">実写の動画が再生されます</div>  <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">サンキェウ(えい)</div> </div> </div>	○ 「ありがとう」という言葉の大切さと心地よさを広げられるように、集会活動などで合唱を発表する機会を設けてもよい。





新型コロナウイルス感染症とSDGs ～「誰一人取り残さない」ためにできること～



新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、女性、子ども、高齢者、障がいのある人や外国人などの社会的に弱い立場にある人たちが、厳しい状況に置かれていることが明らかになってきました。『持続可能な開発目標（SDGs）報告2020 概要』では、「障害者の10人に3人は何らかの差別を経験（2014年～2019年）」しているが「既存の差別の形態がコロナ危機でさらに固定化するおそれもある」としています。また、「80代の高齢者がコロナウイルスで命を落とす可能性は平均の5倍に」と報告されています。

そこで、『持続可能な開発目標（SDGs）報告2020 概要』で報告されている新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によって起こっている問題について、SDGsの目標にあわせて紹介します。

世界の現状

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による問題

『持続可能な開発目標（SDGs）報告2020 概要』から

1 貧困をなくそう



あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

新型コロナウイルス感染症により、世界の貧困はこの数十年で初めて増加しました。2020年には、新たに7,100万人が極度の貧困へと追いやられると報告されています。

3 すべての人に健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

サハラ以南アフリカでは、医療サービスの中止によって、マラリアによる死者が100%増大する見込みです。また、およそ70カ国で子どもの予防接種プログラムが中断されています。

4 質の高い教育をみんなに

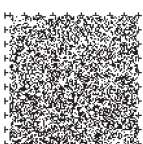
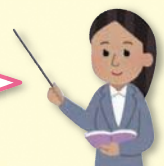


すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

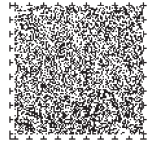
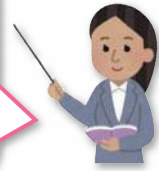
世界において、教育面の不平等は、新型コロナウイルス感染症によってさらに拡大しました。また、新型コロナウイルス感染症の予防に不可欠な基本的な洗面設備がある小学校は、全体のわずか65%です。

報告によると、世界各地で新型コロナウイルス感染症の感染拡大による休校で、給食を食べられなくなった子どもは、3億7,900万人に上る見込みです。

また、世界の児童労働は削減の方向に向かっていましたが、20年ぶりに逆戻りする可能性が大きいとされています。



国際連合の事務局長は、世界中の人々に対して「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行（パンデミック）の最中に間違った情報が流れれば、人の命を奪うことにもなりかねません。立ち止まって考えることを約束し、デマの蔓延を一緒に食い止めましょう」と呼びかけています。



5 ジェンダー平等を実現しよう



ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

都市封鎖（ロックダウン）により、女性と女児に対する暴力のリスクが増大しています。また、女性が無給の家事や育児、介護に費やす時間は男性の3倍でしたが、感染症の拡大によって、女性が家庭で強いられる負担は増大するといわれています。

6 安全な水とトイレを世界中に



すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

新型コロナウイルス感染症の予防には手を洗うことが大切です。全世界で30億人が基本的な手洗いをする設備が自宅にありません。また、2016年現在において、全世界の医療施設の5カ所に2カ所は、石鹼や水も、アルコールを主成分とする手指消毒剤もありません。

10 人や国の不平等をなくそう



国内および国家間の不平等を是正する

「高齢者、障害者、子ども、女性、移民・難民」といった最も脆弱な立場に置かれた人々がコロナ禍による打撃を最も受けています。また、世界的な景気後退で、開発途上国への開発援助が目減りするおそれがあります。

国際連合広報センターホームページに掲載されている『持続可能な開発目標（SDGs）報告2020 概要』をもとに作成

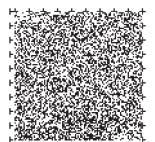
『持続可能な開発目標（SDGs）報告2020 概要』を取り上げ、世界が置かれている現状を紹介しました。文部科学省ホームページ（<https://www.mext.go.jp>）に掲載されている『やさしい言葉で書かれた世界人権宣言』第2条には、「……たといあなたと同じ言語を話さなくても、あなたと同じ皮膚の色でなくても、あなたと同じ考え方をしなくても、あなたと同じ宗教を信じていなくても、あなたよりも貧しかったりお金持ちだったりしても、あなたと国籍が同じでなくても、すべての人は（中略）いろいろな権利や自由をもっていて、それらのおかげで助かる権利をもつのです。」とあります。ともに生きる私たちが新型コロナウイルス感染症の影響による問題を解決すべき人権の問題ととらえて考えていきましょう。

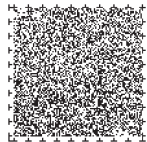
また、同じような問題が私たちのまわりやみなさん自身に起こっているのではないのでしょうか。例えば、SDGsの目標4「すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」の視点から考えてみると、経済的な影響を受け、学生や生徒が進学や修学を断念しようとしていたり、外国人留学生が当面の生活費を工面できず、電気やガス料金などの支払いに苦労していたりなど様々な問題が思い浮かびます。

社会的に弱い立場にある人たちが今、どのような状況に置かれているのか、また、どのような思いで日常を送っているのか、社会情勢に関心を持ったり、地域の人々との関わりを大切にするなどして理解を深めていくことが大切です。そして、「誰一人取り残さない」ために私たちができることを考え、実践していきましょう。



県内の学校でも、新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況下での人のかかりについて考えを深める授業実践が行われています。次のページからは、古賀市立花鶴小学校の取組を紹介します。





古賀市立花鶴小学校の取組



古賀市立花鶴小学校では、新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別の問題について、自作した読み物資料を活用した取組を行っています。ここでは、2作目の読み物資料『思い出のクラス写真』を活用した「特別の教科 道徳」の授業実践を紹介します。

あらすじ

自作した読み物資料『思い出のクラス写真』 文・芝尾 大樹

わたしと同じクラスの幸子は、お父さんが濃厚接触者であるという理由から、2週間学校を休みました。2週間後の幸子が登校してきた朝、わたしが幸子にかけ寄ろうとすると、仲良しの由美子から幸子に近寄らないほうがよい、と止められ、わたしは幸子に近寄ることをやめてしまいました。

その日は、休み時間も誰も幸子に声をかけようとしません。

放課後、たまたま、わたしとクラスメートの太郎は幸子に声をかけ、一緒に帰りました。

翌日は、弁当の日です。幸子とわたし、太郎の3人でお弁当を食べようとしていると、「わたしもいいかな。」と由美子が加わりました。すると、みんながせきを切ったように「私も。」「ぼくも。」と加わり、クラス全員で静かにお弁当を食べました。

みんなが食べ終わるのを待っていた先生が呼びかけ、クラスみんなで写真を撮りました。翌日、先生はその写真を教室の掲示板に貼り、全員に配ってくれました。

わたしは、お弁当を食べ終わった昼休みから、みんなのよそよそしい態度はなくなり、いくつかのグループに分かれていたクラスが一つになったように感じました。

ねらい

最初、新型コロナウイルス感染症患者の濃厚接触者であった幸子に近寄ることができなかったクラスメートが、友情に突き動かされて変容する姿を通して、同性・異性問わず、友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う大切さ（友情、信頼）を理解し、学級の中で望ましい人間関係を築いていこうとする態度を育てる。



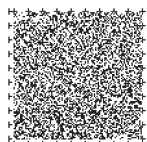
光延校長

「新型コロナウイルス感染症」や「医療従事者への偏見や差別」という新しい課題に対応するため、本校では、読み物資料『温かい手』を自作し、医療従事者の献身的な姿勢や志の尊さを理解し感謝の思いを高める授業を実施しました。この授業実践は、大きな反響をいただきました。

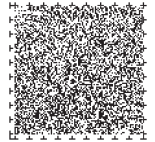
しかし、感染が再拡大し、誰もが感染する状況となりました。いつ本校の児童に感染者や濃厚接触者が出てもおかしくありません。そこで、第2弾の取組を行うこととしました。

校長先生から、休校措置をとった小学校に対して、「(PCR検査で陽性となった児童は)どのクラスか教えろ」「隠しているのか」といった詮索や中傷の電話が複数あったという他県のニュースの話を聞き、感染したり、濃厚接触者になったりした児童に対する偏見や差別を防ぐ授業を行うことが大切だと感じました。

本校の児童に届く授業とするためには、本校の児童の実態をふまえながら自作の資料をつくる必要があると考え、『思い出のクラス写真』を作成し、11月末から授業を行いました。



芝尾教諭



(授業を終えて)

「わかっているけどできない」という本音を、自分のこととして考えさせたいと思い、この授業に取り組みました。

今まで行われてきた古賀市の人権教育の取組、そして古賀市教育委員会を中心とした中学校区単位での人権教育の取組によって、「全ての関係者の人権が尊重されている教育の場としての学校・学級」という人権教育の成立基盤があったからこそ、自分の作成した教材が児童の心に届くものになったのではと感じています。

教師の主な発問と児童の反応



幸子さんがさびしく一人で帰ろうとしていた時、わたしが『一緒に帰ろう。』と言わずにはいられなかったのは、なぜでしょう。

もし、自分が幸子さんだったら絶対に辛い。だから声をかけよう。

悲んでいる友達に声をかけるのは当たり前だ。



それまでは声をかけることができなかったのに、どうして声をかけることができたのでしょうか。

もし、自分が幸子さんの立場だったらどう思うかを考えることができたから。

周りの目を気にしていたから声をかけられなかったが、そのことよりも幸子さんのために行動したいという気持ちが勝ったから。



今日の学習で、わかったことや心に残ったこと、これからこうしていきたいと思ったことは何ですか。

相手のことを正しく知って、友達の立場に立って行動するようにしていきたい。

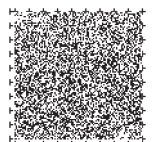
もし、自分が「わたし」だったら、一緒に帰ろうと言えなかったかもしれない。友達のことをしっかりと考えてお互いに助け合えるようになりたい。

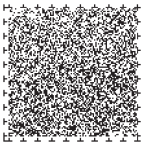


この授業では、教科の目標の達成をめざすと同時に、人権教育の視点に立って、「わかっているけどできない」という本音を自分のこととして考えることや、他の人の立場に立って、その人に必要なことやその人の気持ちを考えて行動することができるようになることをねらっています。このことは、同和問題をはじめとする個別的な人権課題に対する取組においても大切にしたい視点です。

また、発達段階によっては、登場人物の由美子さんに焦点を当て、由美子さんの気持ちの変容について考えたり、由美子さんやクラスメートにどのようにかかわったらすべての人の人権が尊重されるかを考えてみたりしてもよいでしょう。

SDGsが目指している「誰一人取り残さない」ことは、人権問題を考えるにあたって大切にしたい視点です。一人ひとりがかかけがえのない存在として尊重され、互いを認め合う、人権尊重の文化が育まれるよう、人権教育に取り組んでいきましょう。





国際理解教育の推進を図る
人権教育DVDの紹介



福岡県教育委員会では、国際化の進展に伴い、次代を担う児童生徒が国際社会の一員としての自覚を持ち、これまでの歴史や文化・習慣の違いを認識しながら、互いの人権を尊重し、認め合って共に生きていく意識と態度を培うため、国際理解教育を推進しています。

以下に、貸出しができる「外国人の人権」をテーマにした視聴覚教材を紹介しつす。

ケーススタディで学ぶシリーズ D0192
『その人権問題わたしならどうする? 地域編』 【36分】

人権についての知識があつても、複雑な人間関係が絡み合い、自分が正しいと考える方を選択することが困難な場合があります。

この作品は、さまざまな人権問題（障がいのある人、ホームレスの人権、外国人、性的少数者、同和問題）を通して、もしも登場人物の立場になったら自分はどう行動するかを考える作品となっています。

『わっかカフェへようこそ』 ～ココロまじわるヨリドコロ～ D2980
【35分】

この作品に登場する町の路地にたたずむ小さなカフェ「わっかカフェ」は、いろいろな人が訪れ、心を交流し、ココロまじわるヨリドコロとなっています。以下の3つのストーリーで構成されています。

- ・インターネットによる人権侵害「三色団子の向こう側」（約12分）
- ・高齢者の人権「世代をつなぐ柏餅」（約8分）
- ・外国人の人権「コンペイトウの来た道」（約12分）

『外国人と人権 違いを認め、共に生きる』 D2873 【33分】

外国人に対する差別をなくし、皆が住みよい社会をつくりあげるために私たちにどのようなことが問われているのでしょうか？

この作品は、外国人に関する人権問題をドラマや解説で明らかにし、多様性を認め、人権が尊重される社会の実現のために何ができるかを考える内容になっています。

編集後記

▼表紙の写真は、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つである三池炭鉱宮原坑です。大牟田市内の学校では、この宮原坑や海外の世界遺産を取り上げた世界遺産学習に、ESDの一環として取り組んでいます。▼この学習の学びは、異文化や多様な価値観を理解し、平和な世界の実現に努める態度の育成につながっていくと考えます。▼今から十年後、2030年を迎えます。混迷を極める世界の中で、持続可能な開発目標SDGsの意義はますます高まっています。▼世紀を「人権の世紀」にするために、「誰一人取り残さない」「すべての人の人権を大切にする」という人権の理念が掲げられたSDGsに学びながら、私たち一人ひとりにできることを考えていきましょう。▼本号は「世界と人権」をテーマにお届けしました。

『KARA FULL』は福岡県教育委員会のホームページにも掲載しています。

KARA FULL 福岡 で 検索